

アクティブラーニングがなぜ必要か？

1980年代からアメリカの多くの教師にアクティブ・トレーニングを実施してきた Mel Silberman (1996) は以下の見解をもっている。

<真の学習を達成するには>

- ・ 学習は、学生の頭に情報を注ぎ込むと、自動的に生起するのではない。
- ・ 学習には、学習者の、心的な関与と為すこと (doing) が欠かせない。
- ・ 学習者による説明と例示のみでは、現実の継続的な学習は保証されない。
- ・ 'アクティブである'学習のみが、真の学習を成し遂げることができる。

<何が学習をアクティブにするのか？>

- ・ 学習者がブレイン（脳）を使い、アイデアを研究し、問題を解き、学んだものを適用するときにアクティブになる。
- ・ 速いペース、支持的で個別化された取り組みがアクティブを生み出す。
- ・ 学生はしばしば席を離れ、動き回り、大きな声を伴って思考する。

<なぜアクティブラーニングが必要か？>

- ・ 何かを学習するには、それを聞き、そして見、それについて疑問を出し、他者と議論する必要がある。
- ・ 学生は為すことが必要である。すなわち、自分たちで物事を明らかにし、例に取り

組み、さまざまなスキルを使い、既知および獲得が必要な知識に依存した宿題をこなすことで高い学習を達成できる。

文献

Melvin, L. Silberman 1996 Active Learning: 101 strategies to teach any subject.

A Simon & Schuster Company: Massachusetts.